科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AT122／演習　E22 (Seminars E22)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	平成時代の短・中篇小説を読む		
担当者名 (Instructor)	椋棒　哲也(MUKUBO TETSUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	JAL2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

一つでも多くの現代小説を読むなかで、作品について解釈したことを記し、自分の考えを多人数(場合により少人数)の前で語り、さらに話し手の思いを聞き取る、という具体的な読解表現力の習熟を目指す。

By reading as many contemporary novels as possible, students will be able to write down their interpretations of the works, talk about their thoughts in front of a group of people (or a small group of people in some cases), and listen to the thoughts of the speaker.

授業の内容(Course Contents)

この演習は、受講予定者の皆さんが人生の大半を過ごしてきた、平成時代の 30 年間に現れた現代文学を、考察の対象とする。受講者は教員が提示する作品から一つを選び、各自の観点で研究発表を行う。ただし形式・主題の普遍性・表現・社会や文壇に対する影響力・内容、などに対する着眼は、最低限ありたいところだ。また当然ながら発表者以外も作品を読んで演習の場に臨むことになるが、出席の前にあらかじめ「Google Forms」で自らの解釈を記しておくことが求められる。このコメントを基に、演習中に行われるグループ・ディスカッションで発言、さらに発表者への質問へと繋げて貰いたい。なお受講者は班を作り、その班により第 4～13 回のうち 1 回で発表を、別の 1 回で司会を、それぞれ担当するものとする。なお授業の内容や計画は修正することがある。

This exercise will focus on contemporary literature that emerged during the 30 years of the Heisei era, the period in which the prospective students have spent most of their lives. Students will choose one of the works presented by the instructor and present their research from their own perspective. However, students are expected to have at least an eye for form, universality of subject matter, expression, influence on society and the literary world, and content. In addition to the presenters, students are expected to read the works and write down their own interpretations on Google Forms before attending the seminar. Students will be asked to write down their own interpretations in Google Forms before attending the class. Based on these comments, they will be encouraged to speak up in the group discussion during the exercise and ask questions to the presenters. Students will be divided into groups, and each group will be in charge of giving a presentation in one of the four to thirteen sessions, and serving as a moderator in another session. The content and plan of the class are subject to change.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに:作品の提示と担当者の決定ほか
2. 文献の集め方と発表の行い方―復習―
3. 模擬発表:作家未定「作品未定」
4. 受講者による発表その 1
5. 受講者による発表その 2
6. 受講者による発表その 3
7. 受講者による発表その 4
8. 受講者による発表その 5
9. 受講者による発表その 6
10. 受講者による発表その 7
11. 受講者による発表その 8
12. 受講者による発表その 9
13. 受講者による発表その 10
14. おわりに:レポートの書き方または予備時間

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

作品を決定した後、各自で発表の準備を怠りなく進めること。なお上記の通り第 4 回以降、受講者の全員が事前に作品を精読して各自の「読み」を固め、授業のなかで相応の発言を行うための用意をし、その場に臨むことが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/担当作品に関する研究発表(40%)/毎回の出席と、併せて適宜書いてもらうリアクションペーパー、ほか議論に対する貢献度(30%)
本授業は、発表や討論に関する知識や方法の体得を一義とする。ゆえに、一、単位取得のためには研究発表が必須である。なおやむを得ず担当回を欠席した場合は、改めて発表の機会が与えられる。二、7 割(14 回のうち 10 回)以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。また 30 分を超えて入室・退出する行為はこれを出席と認めない。ただし電車遅延等による遅刻の場合は相談に応じる。

テキスト(Textbooks)

第 1～3 回の資料は教員が用意する。第 4～13 回のテキストは、受講者自身が購入ないしは図書館などで借り出して準備する。
なお受講を予定する場合は、第 1 回の授業に必ず出席すること。

参考文献(Readings)

なし。場合により授業のなかで紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

なし。

注意事項(Notice)